

平成30年度 県立那珂高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像

本校の最大の特徴である『出口（進路実現）に責任を持つ学校』を実現するために次の3つの柱を重点項目とする。

①進路希望を確実に達成：生徒一人一人に対するきめ細やかで適切な学習指導及び進路支援を行う。

②特別活動の振興：活力ある多彩な教育活動を展開し、その活動を通して生徒の人間教育を実践する。

③国際交流の推進：グローバルな視点を持つ人材育成の観点から海外派遣や受け入れ等、国際交流を実践する。

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
〔成果〕 生徒理解に基づく指導を行うことで、生徒が落ち着いた環境の中で、充実した学校生活を送っている。特に、制服のきちんとした着用が定着した。 生徒一人一人の個性及び目標を尊重して進路指導を推進した。大学進学率は、昨年と比べ増加している。 部活動等において、活発な活動により関東大会、全国大会等に出場している部が現れ、着実に成果をあげることができた。 〔課題〕 国公立大をはじめとする四年制大学への進学率をさらに増加させるとともに、公務員試験合格者数を増やす。 部活動や課外への参加率をさらに増やす。 オーストラリア短期留学を実状に合わせて実施計画を立てる。	生徒の能力の開発と確かな学力を身に付けさせる指導内容等の充実	① 授業時間の確保とPDCAサイクルによる授業や学習指導法、評価方法の工夫・改善 ② 学習方法の指導充実による家庭学習の習慣化と時間増 ③ 課外授業の充実と積極的参加促進 ④ 学校図書館の充実と積極的活用	A
	生徒の主体的な進路選択とその達成	⑤ 進路意識の高揚を図るための発達段階に応じた進路指導 ⑥ 進路情報等の収集・分析による計画的な進路指導 ⑦ 個別面談の充実 ⑧ 進路出口の質的向上	B
	自律的な生活態度の確立	⑨ 基本的な生活習慣の定着と規範意識の涵養 ⑩ 生徒理解に基づいた生活指導の推進 ⑪ 教育相談の充実 ⑫ 家庭や地域社会及び関係機関との密接な連携による問題解決	A
	活力ある学校生活の実現	⑬ 学校行事やホームルーム活動等への積極的な参加の推進 ⑭ 生徒会活動や各種委員会活動の活性化 ⑮ 部活動等への積極的な参加促進	A
	日本や外国の文化に対する関心・理解の深化とそれらを尊重する態度の育成	⑯ 海外短期留学や異文化理解活動の円滑な実施 ⑰ 多様な交流事業等を通して国際理解教育の促進とグローバルな視点を持つ人材の養成	B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価観点	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導		・「生徒自ら考える」授業を展開し、基礎力の定着と応用力を育成する。	・シラバスや学習指導計画に基づいて、学習内容と進度を適切なものとする。	①	B	・生徒の課外授業へのより積極的な参加と学力の向上を図る。 ・主体的・対話的で深い学びの更なる実践の推進を図る。
			・各種調査の結果を踏まえ、科目の特性に応じた効果的な学習方法を指導する。	②	A	
			・少人数授業（国数英）の他、様々な授業形態を工夫して、生徒一人一人によりきめ細かい指導を実施し、レベルに応じて学力を向上させる。	①②③④	A	
			・課外授業を充実し、生徒を積極的に参加させる。	③	B	
			・苦手科目の早期発見、早期改善に努める。	②	B	
教科	国語	・文学的な教材（特に小説）と論理的な教材（特に評論）を中心に学び、現代文を読解する力を養う。 ・価値の高い古典教材を学ぶことにより、国際社会に通用する、自国の文化と伝統について考察と理解を深める。	・国語の基礎学力となる漢字力と語彙力を身につけるために、積極的に辞書を引かせ、定着させるテスト等を行う。	①②	A	図書館利用の促進を図る。
			・課題等を工夫することにより、予習・授業・復習の学習サイクルを確立させる。	①②	B	
			・書くこと、話すことに慣れ、具体的に自己表現できる力を身につけることができるようにする。	①②③④	B	
			・読書週間を設け、自主的に選書し読書する習慣をつくる。	④	A	
	地歴公民	・基礎学力の充実に努める。 ・歴史的・地理的事象に対する関心を高め、自発的思考力を育てる。 ・現代の社会への関心を高め、自発的思考力を育てる。	・自作プリント等を活用し、授業で扱うテーマへの理解を深める。	①②	B	覚えた知識を利用して思考力・判断力を養成する指導を行う。
			・身近な素材を教材化したり、図説資料や視覚教材などを効果的に用いることで、興味関心を高める。	①②	A	
			・新聞などを活用し、生徒に国際社会や政治・経済への関心を高める。	①②	A	
	数学	・基礎学力の向上を図る。 ・数学のよさを認識させ、積極的に活用する態度、判断力を育てる。	・授業や教材における基礎・基本と応用の配分に配慮しつつ、進度を適切なものとする。	①②	A	・基礎学力が定着するように、きめ細かく指導する。 ・成績上位者層の応用力や思考力を伸ばす。
			・学習内容の定着を図るための方策を徹底する。（授業展開、課題、小テスト等）	①②④	A	
			・課外授業により学力上位層の実力を養成する。	③	A	
			・少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にし、基礎学力の向上を図る。	①②	A	
	理科	・基礎学力の向上を図る。 ・家庭学習習慣の定着に努める。 ・理科がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。	・授業目標に沿う授業計画を立案する。	①②	A	実験指導の工夫と改善を行う
			・授業内容の予習・復習を行うように促す。	①②	B	
			・家庭学習課題を与え、家庭学習の習慣をつけさせる。	①②	A	
			・実験指導の充実を目指し、実験内容、方法等について、工夫改善に努める。	①	B	
	体育	・体力の向上を目指す。	・体力テストを通し、生徒自身の体力を把握する。	⑤⑨⑩	A	・生徒の身体状況の確認（疾病の有無）。 ・体力の向上。 ・クラスマッチの行程、安全対策。
			・単元として、体ほぐし運動を実施する。	⑩	A	
		・運動技能の向上を目指す。	・各種目の特性を理解し、課題解決のための運動を行う。	①②	B	
			・ルールや審判法を学ぶ。	②④	B	
		・関心・意欲態度の確立に努める。	・クラスマッチなどの体育的学校の行事の企画運営を通して、運動の楽しさや喜びを味わえるようにする。	⑬⑭	A	
			・自己の役割を把握し、公正、協力、責任などの態度を身につける。	⑬⑭	A	
	保健	・心身の健康・安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を送るために必要な事項を理解し、知識を身につける。	・教科書以外の様々な資料も使用して授業を展開する。	②	A	・ITCの活用。 ・アクティブラーニングの実践。
			・学習ノートを単元毎に行わせることによって、理解を深める。	①②	A	
			・単元によっては実践実習を行わせることによって理解を深める。	①②	B	
			・定期考査、単元プリントを使って理解度を向上させる。	①②	A	
			・授業内容、方法等について教科内で工夫改善を図る。	①②	A	
			・必要に応じて外部専門家の講義を開催する。	⑤⑧	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価観点	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	芸術	・芸術を愛好する心情を育み情操を養う。	・美術については、課題を多面的に設定して、幅広く創造活動を体験することで、感じる力、工夫する力、表現する力を養う。	②⑬	B	A	芸術を通して情操を養い、表現する力を育く指導の充実を図る。
			・音楽については、音楽の基礎となる知識や技術などを習得させ、実際に活用できる能力を身につけさせる。	①⑬	A		
	外国語	・基礎学力の向上を図る。 ・家庭学習の習慣をつける。 ・積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。	・「英語で行う授業」の実践に向けた授業方法を工夫(少人数指導、ドリルの多用等)する。	①	B	B	外部試験導入とその在り方の検討
			・課題を出し予習、復習を定着させる。	②③	B		
			・少人数授業(「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」)を実施して、英語でのコミュニケーションの機会を増やす。	①	A		
	家庭科	・指導計画と指導内容の充実に努める。	・生徒の実態に応じた指導内容の精選と指導時間等の配分を工夫する。	①	A	A	実験・実習時における手順など、改善の余地を探る。実生活に生かせる教材の工夫を心がける。
			・ワークシートや課題等の提出により学習成果を確認する。また、実験実習等を取り入れながら学習効果の向上を図る。	①④	A		
		・制作活動の工夫を図る。	・目標を持って取り組める教材を取り入れ、達成した喜びを体験させる。	①	A		
	庭	・安全指導と事故防止に努める。	・施設設備、用具等の点検を十分に行う。 ・実習時の身支度の徹底を行い、安全、衛生面に留意させる。	①	A		
	情報	・生徒の多様な実態に対応し、一人一人の個性を育て伸ばしていく。	・自ら調べ、まとめ、発表する活動、話し合いや討論の活動などを通して、情報活用の実践力が高まるような場面の時間をより多く作る工夫をする。	①	C	C	情報モラルについての様々なケースへの対応を主体的に考える
教務	教務	・学習指導法の工夫と授業研究の推進	・わかりやすい授業を展開するため、指導法や評価方法の研修改善に努める。	①	B	A	・主体的・対話的で深い学びの更なる実践の促進。○HP等の活用した情報発信の充実を図る。 ・より良い学校説明会を目指して内容と案内スタッフの更なる技術の向上を図る。○地域に開かれた学校を目指し学校公開時に働きかける。○新天皇即位に伴う連休や茨城国体による授業時間の減少を補うために振替に努める。
		・授業時間の確保	・授業の充実を図るためのシラバスを作成する。	①	A		
		・校内研修の充実	・出張、年休等における授業の確保(振替)に努める。	①	A		
		・広報活動	・人権教育等についての教職員研修会を充実させる。	①	B		
		・中学校、地域との連携を図る。(学校説明会、中学校訪問等)	⑥	A			
		・インターネットの活用を図る。(ホームページ等)	⑥	B			
特別活動	生徒指導	・学校行事等を通じた帰属意識・協調性の涵養	・生徒を主体とした学校行事の企画・運営を行う。	⑬	A	A	各種委員会の積極的活動の推進
		・部活動の活性化	・クラスマッチ等を通して成就感や達成感を体験させ、クラスの連帯意識を培う。	⑬	A		
		・基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	・部活動の部員を確保するとともに活性化を図る。	⑮	A		
		・心の教育の充実	・マナーアップ週間を利用して挨拶等の全般的なマナーの向上を訴える。	⑨	A		
進路指導	生徒指導	・交通安全教育の推進	・家庭と連携し、携帯電話・スマートフォンを正しく利用する態度の育成を図る。	⑨⑫	B	A	・SNS利用時のルール遵守・マナーの更なる向上 ・カウンセリング等による心の健康問題の早期発見及び支援の充実
			・年8回の服装指導で身だしなみの乱れを防ぐ。	⑨	A		
			・教員間の連携を密にし、心に問題を抱える生徒の早期発見に努める。	⑩⑪	A		
	進路指導	・生徒の主体的な進路選択の支援	・交通安全講話等を通し、特に自転車の交通安全を図る。	⑫	A	A	平常課外参加者は3学年計で578名から389名に減少。再び増加を目指す。センター試験受出願者は75名であった。継続して生徒へのきめ細やかな進路指導を行っていく。
			・生徒が高い進路目標へ向けて努力するように、個別面談や進路相談の充実を図る。	⑥	A		
			・的確な各種進路情報を積極的に提供する。(進路情報誌、パンフレット、進路だより等)	⑦	B		
			・インターンシップへの主体的参加を促す。	⑤	A		
			・サテライトや講習会の積極的な活用を図る。特に3年生は参加者15人超を目指す。	⑤	A		
			・課外授業への主体的参加を促す。平常課外、休業中課外の量的、質的向上を目指す。特に3年生は参加者40人超を目指す。	⑧	B		
			・各種模擬試験の積極的利用を図る。1,2年生は年間3回全員が受験し、3年生についても70人超の生徒が受験するよう指導する。	⑧	A		
・センター試験の受験者数を拡大する。(70人超目標)	⑧	A					
図書	・学校図書館の整備の推進及び利用の促進	・生徒・教職員からの図書購入希望を積極的に募り、より充実した図書選定に努める。	①④	A	A	・部内役割分担の再検討。 ・図書委員リーダー養成。 ・朝の読書、多読賞についてなお一層の周知。 ・各教科利用の促進。	
		・利用方法の簡略化を図り、より利用しやすい環境を整える。	④	A			
		・朝の読書週間と年間多読賞を、図書館利用者(貸し出し数)の増加につなげるため、事前の呼びかけに力を入れる。	④⑭	A			
		・図書委員会の活動をより充実させ、図書館の美化・整備に努める。	④	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価観点	評価	次年度(学期)への主な課題
保健厚生	・学校とその周辺の美化と環境整備	・清掃用具の整備をはかるとともにその整理に努める。	⑭	A	在庫管理の徹底
		・地域住民を考慮し、学校周辺と通学路、後台駅～五台小学校までの清掃活動をH R単位で実施し、美化意識の高揚を図る。	⑬	A	
		・教室・特別教室の美化、整理の徹底を図る。	⑬	B	
		・各分担地域、場所の清掃の徹底を図る。	⑬	B	
渉外	・PTA活動の活性化と家庭との緊密な連携関係の構築	・PTA総会、研修会、校外指導等の各種行事への参加率のアップを図る。	⑫	B	PTA総会の参加率を上げる
		・広報紙等の充実を図り、学校と家庭の連携に努める。	⑫	A	
1学年	・基本的生活習慣の確立	・挨拶の励行と、きちんとした服装、言葉遣いを身につけさせる。 ・遅刻防止等、時間の厳守に努めさせる。 ・手帳の活用により、活動や体験等をきちんと記録させ、自己管理能力を高める一助とする。	⑨ ⑨	A A	・様々な進路希望に対応できる基礎学力の定着と向上。 ・進路目標を意識した自主的活動の督励。 ・活動の計画力・記録を含めた自己管理能力の醸成。
	・基礎学力の定着	・予習、復習、課題学習等を中心として、家庭学習や自主学習に毎日継続して取り組ませ、習慣化を図る。 ・課外授業や模擬試験等への積極的な参加を促す。	② ③	B A	
	・特別活動への積極的な参加	・部活動や学校行事への積極的な参加を推進し、活力ある学校生活を送らせる。	⑮	A	
	・進路目標の検討及び早期の決定	・個別面談、進路ガイダンス、大学見学会の実施及び的確な進路情報の提供等により、自己の進路について考えさせ、早期決定の支援をする。	⑤⑥⑦		
	・「道徳」教育の確立	・生徒一人一人の豊かな心を育て、将来に向けて人生や社会を切り拓いていこうとする道徳的実践力を高める。	⑨⑩		
2学年	・基本的生活習慣の見直し	・校則を遵守させ、規律ある生活態度を育む。	⑨	B	進路実現に向けた課外等、学習環境の整備・充実
		・時間の厳守、挨拶の励行。	⑨	A	
		・服装、みだしなみ、ことば遣いに注意させる。	⑨	A	
	・学力の定着と向上	・予習復習を徹底させ、毎日の授業を大切にす。	②	A	
		・家庭学習や自主学習を毎日継続して取り組ませるとともに、学習の記録を毎日付けさせ、習慣化を図る。	②	A	
	・進路目標の決定と実現に向けての意識の高揚	・校外模試、課外授業、各種検定、校外体験活動に積極的に取り組ませ、自分の実力を把握し、能力の伸長を図る。	③⑤⑥	A	
		・自己理解を深めさせ、個性や能力にあった進路を見出す努力をさせる。	⑤⑥	A	
	・特別活動への積極的な参加	・部活動、生徒会活動、学校行事に積極的に取り組ませる。	⑬⑭⑮	A	
		・委員会活動、清掃、当番活動を通じて責任感を育成する。	⑬⑭⑮	A	
	・修学旅行を実りある行事にする	・団体行動を通して、協調性や責任感を育成する。	⑨⑬	A	
・旅行先の歴史や文化を学ぶと共に、平和についての考えを深める。		④⑬	A		
3学年	・進路を意識した生活の実践	・挨拶の励行と、きちんとした服装、言葉遣いの徹底を図る。 ・時間の厳守に努めさせる。マナーを身につけさせる。	⑨ ⑨	B A	新1年生へ向け、入学後から進路決定に向け早期の意識付けと対策がとれるよう引き継ぎをする。
	・生徒一人一人の進路目標の実現	・校外模試、課外授業等・六葉館での自主学習に積極的に取り組ませ、進路目標実現を図る。	③⑥	A	
		・家庭学習を充実させ、進路目標実現を図る。	②	A	
		・きめ細かい進路相談及び保護者との緊密な連携により、生徒全員の進路目標実現を図る。	⑥⑦ ⑪⑫	A	
	・特別活動への積極的な参加	・部活動、生徒会活動、学校行事に最高学年として積極的に取り組ませる。	⑬⑭⑮	A	
		・委員会活動、清掃、当番活動を通じて最高学年としての責任感を育成する。	⑬⑭	A	
	国際交流の推進	・外国、日本双方の文化を尊重する精神の涵養	・海外短期留学の推進を図る。	⑯⑰	
・海外からの留学生の積極的な受入の推進を図る。			⑯⑰	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価観点	評価	次年度(学期)への主な課題
自主的・自発的学習の推進	・自主的, 自発的学習の推進による目的意識, 学習意欲の高揚と計画的, 継続的学習の習慣化	・多目的学習館(六葉館)の利用を促進する。	②③	A	六葉館の開館時間は主に3年生向けに19時まで延長している。3年目となったが, 次年次以降も継続していきたい。
		・サテライト講座をはじめとする, センター試験へ向けた教材の利用を促進する。	②③	A	
		・小テストや家庭学習(宿題)の課題を課すことで, 学習の習慣化を図る。	①	A	
体育・文化活動の推進	・部活動の振興	・部活動への積極的な参加を促進する。	⑨⑮	A	・部活動加入率の更なる向上。 ・学校行事への積極的な参加
	・体育・文化活動の振興	・クラスマッチ等の学校行事を充実させ, 積極的な参加を促す。	⑬⑭⑮	A	
いじめ問題対応	・いじめの実態把握及びいじめに対する適切な措置	・本校いじめ防止基本方針に基づき, いじめの未然防止, 早期発見, 早期解消に努める。	⑨⑩	A	・いじめに関する相談をしやすい体制の更なる強化 ・自己指導能力を高め, いじめに向かわない態度や能力の育成を図る授業の実践
		・教職員間の連携を密にして, 生徒への声かけ等を積極的に行い, 情報を共有する。	⑩⑪⑫	A	
		・SNS等によるトラブルが起こらないよう, 啓発及び情報の収集に留意する。	⑨⑫	A	
		・生徒主体のいじめ未然防止が実践できるような手立てと支援を工夫する。	⑨⑩	A	

※評価基準(達成度) 【A】: 100～80% 【B】: 79～60% 【C】: 59～40% 【D】: 39～20% 【E】: 19～0%